

掲載号	2 月 4 週号	
筆者	所属	農林総合研究センター
	職名及び氏名	上席研究員 林 玲子
題名	水稲もち品種「ふさのもち」の特性と栽培のポイント	
備考	【写真説明】倒伏に強く、栽培しやすい「ふさのもち」 【表説明】壤質土における「ふさのもち」の窒素施用量（基準値）と生育目標及び目標収量	

【本文】

千葉県の水稲もちの栽培面積は約 1,600ha ですが、県内各地の農産物直売所では、もち加工品が定番商品として年間を通じて販売されており、今後も需要の伸びが期待されます。ここでは、今春から一般栽培が始まる千葉県育成の新品種「ふさのもち」の品種特性と栽培のポイントについて紹介します。

「ふさのもち」は、成熟期が「コシヒカリ」より 5 日早い中生品種です。4 月中下旬植えの「コシヒカリ」より後に収穫したい場合は、5 月上中旬に「ふさのもち」を移植するようにします。

稈長は約 75cm で「コシヒカリ」よりおよそ 18cm 短く、倒伏に強い特徴があります。また、冷害やいもち病に強く、穂発芽しにくいので、とても栽培しやすい品種です。

のげや糲が赤褐色に着色するため、うるち品種と識別しやすい特徴もあります。収穫適期は出穂後 36～44 日で、帯緑色糲歩合が 20% 以下になってから収穫を始めます。刈り遅れは整粒歩合を低下させるので注意してください。

玄米千粒重は約 23 g で「ヒメノモチ」より大粒であり、玄米外観品質も良好です。

餅はのびがよく、こしもあって、消費者への食味のアンケート結果は良好でした。また、原料米と加工品についての加工業者の評価も、「精米が白い、粒が大きくて赤飯の見栄えがする」など良好でした。

「ふさのもち」の窒素施用量と生育目標及び目標収量を表に示しました。適切な栽培管理で品質・食味の良い「ふさのもち」を生産し、地域の直売所でご活用ください。

壤質土における「ふさのもち」の窒素施用量(基準量)と生育目標及び目標収量

移植 時期	基肥 窒素量 (kg/10a)	穂肥		幼穂 形成期 茎数 (本/m ²)	穂数 (本/m ²)	一穂 糲数 (粒)	m ² 当たり 糲数 (粒)	玄米 千粒 重 (g)	精玄米 収量 (kg/10a)
		窒素量 (kg/10a)	施用時期						
4月20日	6	3	出穂前 18～10日	500	350	75	28,000	23	600
5月10日	4～6		(幼穂長 1～10mm)	～600	～400		30,000		～650

注) 10a 当たり基肥窒素施用量は、砂質土では 1kg 多く、粘質土では 1kg 少なくする。

倒伏に強く、栽培しやすい
「ふさのもち」



ふさのもち

ツキモチ